

	第	特定非営利活動法人 愛逢
	27号	尼崎市小中島1-20-21 電話 06-6493-1424 FAX 06-6493-1443 発行責任者 長谷川 達雄 発行日 2009年9月4日

『愛逢の家』『ミッション（社会的使命）』について理解を深める

全体研修が開かれました

7月19日（日）、10時から聖トマス大学で愛逢の理事、スタッフ（職員）、ヘルパー、ボランティア、会員が初めて一堂に会しての全体研修が約60名の参加で行われました。

研修前半は、小西加保留理事の司会で始まり、長谷川達雄理事長のあいさつの後、愛逢がNPO法人になってから最も大きな事業であるホームホスピス「愛逢の家」について兼行栄子理事より説明を受けました。

また、研修後半では、愛逢の全体像を知っていただく、「組織図」を使いながら各部門ごとに全メンバーが紹介されました。つづいて滑川清文事務局長から、NPO法人愛逢のミッション（社会的使命）とその目指しているものについて理解を深めながら、一人一人が「愛逢



＜『愛逢の家』について説明する兼行理事＞

の一員である」という自覚を共有しようと呼びかけがありました。

最後に、米田昌子副理事長より閉会のあいさつがあり、12時に研修を終了しました。

シンポジウム『ほっとけん！地域の大学・聖トマス大』

6月6日に聖トマス大学が、「学生募集停止」、統合・譲渡先が見つからなければ数年後の学校閉鎖がありうるということを新聞発表しました。



＜激励のエールをおくる白井市長＞

ただちに、愛逢や園田苑などが中心となり「がっかりしている学生や教職員を励まし、地域の大学・聖トマス大学をどうすればよいのか

知恵を出しあうために集まりませんか！」と呼びかけを發しました。

熱気にあふれる会場

7月19日（日）、午後2時から聖トマス大学で120名の方々の参加でシンポジウム『ほっとけん！地域の大学・聖トマス大学』が開催されました。

中村大蔵園田苑長からの趣旨説明、小田武彦聖トマス大学長から現状報告につづいて、各立場からのリレートークへ。白井文市長はじめ登壇者からは「なんとかして地域に開かれたこの大学の存続を探っていこう」というエールが続き、会場は熱気につつまれるものとなりました。

愛逢としても、聖トマス大学の存続にむけて可能な限り支援をつづけていきたいと思いますので、会員のみなさんのご協力をよろしくお願ひします。

滑川清文（事務局長）

利用者さんのさまざまな声！！



<大道 ゆきさん カツ子さん>

介護保険

… 介護保険(訪問介護)…介護認定で、
要支援、要介護の認定を受けられた方の
家庭をヘルパーが訪問して介護や家事の援助を行います。

カツ子さん「いろんなヘルパーさんがきてくれますが、みんな良くしてくれます。本当に助ってます。」ありがとうございますっ！！

ゆきさん「毎日喜んでるわっ。ただ…名前が覚えられなくて」(笑)
み～んな一緒です！ (^ ^) !

障害者自立支援…認定を受けた方へ、介護や家事、移動の援助を行います。

「一緒に丸橋公園やら買い物へ行ったりしています。今まで行った事のある場所の話や今度行ってみたい場所の話をするのが楽しい。」
次回はどこ行きましょうか？



<福西 正文さん>

福祉有償運送…自立支援のご利用者で一定の規定に該当する方を対象に車での外出支援を行います。



<吉井 清子さん>

「いつもありがとうねっこれからもヨロシク。
では行って来ま～す！」
お気を付けて行ってらしゃ～い。



介護保険ではできない

くらしの助け合い活動！！(会員限定、有償支援)

愛逢(当時/愛逢くらぶ)は、1995年『くらしの助け合い』のボランティア活動から始まりました。

2000年より介護保険制度ができ、愛逢も2005年にはNPO法人を立ち上げ、訪問介護(ヘルパー派遣)、居宅介護支援(ケアマネ)と制度に則った事業を始めました。ですが、や

はり介護保険制度上では、「これはヘルパーにはできません」「あれはヘルパーの仕事ではありません」等々…。これでは本当のその人らしい暮らしの支えはできません。その人その人のお困り事・求める事を互いに助け合う。それが愛逢の『くらしの助け合い』活動です。

<福原由美>

～最近地域でこんなお困り事がありました～

「網戸がきちんと閉まらず小さな虫が入ってきて困っている…」



きちんと閉まるようになりました。
虫も入って来なくなり、大変喜ばれています。
元大工さん、おみごと！

お庭の梅の木の剪定や草引きもさせて
いただいています。草は数日ですぐに生
えてきちゃいますが…(;_ _)



配食サービス

利用者さんについて

NPO法人愛逢の会員に入会していただいた方に夕食（16：30～17：30頃）を保温容器で手作り弁当を配達しています。

料金は一食（580円）・おかずのみ（500円）等、ご相談いただければ詳しくご説明いたします。



<小松原操さん>



<花房利充さん>



<配食の献立>

利用者さんの声

岡野 美弥子さん「週1回利用しています。後は息子が食材等を買って来てくれるのですが、愛逢さんのご飯がおいしいですね。お米が違うのでしょうか？」

大鳥 吉久さん「おいしく食べさせていただいています。助かっています」

Aさん「味付けが濃いのではないのでしょうか？」

Bさん「経費節減をしすぎるのでは…？最近おかずの充実感が少ないです。」（・_・）

明治安田生命さんよりいただきました！

明治安田生命阪神支社さんより配食サービスの厨房備品購入費を贈呈して頂きました。

市民参加型食事サービスを提供するNPO法人に対し行う助成金の一環で阪神間では初めてとの事。

設備が充実することにより、サービスをさらに高められます。本当にありがとうございました。



明治安田生命さんが贈呈

ミッション(社会的使命)

私たちは多様な生き方が尊重され、
誰もが安心して暮らせる地域を作る為に、
仲間と支えあい(愛)、つながり(逢)っていきます。

ホームホスピス「愛逢の家」

「愛逢の家」のオープン予定が大幅に遅れております。現在11月オープンが目標です。

盆明けに、改修工事の段取りをして、9月に工事が始まりました。

エレベーターにまつわることでだけでも1ヵ月半はみておかなければなりません。

本当に沢山の方々からのご寄付、各方面からの問い合わせなど、「愛逢の家」にお寄せいただく熱い思いがひしひしと伝わってくるだけ

に、この大幅な遅れには、スタッフ一同が申し訳なく思っております。しかし、きちんとした工事をお願いし、納得できる形でオープンしたいと考えておりますので、ご理解くださるようお願い致します。

末筆になりましたが、皆様の温かいお志に心より感謝申し上げますとともに、目標達成までに、更なるご協力を重ねてお願いする次第でございます。
＜兼行栄子＞

寄付金をいただきました

現在の「愛逢の家」の寄付金

3,225,000円

270人



沢山の方から、ご寄付をいただきほんとうにありがとうございます。「愛逢の家」に寄せられたお一人お一人の思いの結晶として、大事に遣わせていただきます。

何分、介護保険等の制度内の事業ではない為、運営には厳しいものが予測されます。今后とも継続して寄付活動に取り組まなければなりません。よろしくお願い致します。

＜理事長 長谷川 達雄＞



ホ ッ ト 待 夢



私は、この家で飼われて15年になります。もう老犬といわれる年齢になり、最近は病気をよくします。先日も膀胱炎とかで家族に迷惑をかけました。この夏の暑さがこたえたのでしょうか。愛逢の皆様には、この暑さをどのようにしてお過ごしですか。残暑とはいえ、熱中症、インフルエンザにかからないようお気をつけ下さい。

愛逢は、この秋、地域で安心して暮らせて終の住み家として選んで頂ける「愛逢の家」がオープンするそうですね。人間の社会では、みんな考え力を合せ作りあげてゆく素敵な行動力がありませんね。私達の世界は保険制度も無いし、保障制度もないし…、この先はご主人様次第と不安です。

NPO 法人愛逢の初志貫徹への思い、そして実現には「わんだフル」(^_^) v <通称 ペコ>